

令和5年度事業報告

認定こども園木の実

1. 質の向上

①【組織力】の向上

2等級以上の職員を筆頭とした話し合いの場を必要に応じて設けた。役割の認識をもつ機会としていった。不適切保育の話し合いが中心となり、気づきや課題を議論しながら振り返りや改善を行った。主体的な話し合いの活性化を図るため、プロジェクト活動を企画し、次年度の本格化に向けての準備を行っていった。

②【保育力】の向上

公開保育を2回実施した。福井市の公立私立の保育関係者の他、円山小学校の教諭にも参加していただいた。福井市かつ地域で保育を考える機会となった。

制作遊びが発展し、子どもから出てきた「パン作りたい」の声から、施設に出かけ実際にパンづくりを行った。また、子ども自身のタイミングで食事をする環境を取り入れ、子どもも保育者も主体性を発揮していった。法人Instagram、NHKの取材報道、保育雑誌での食育活動の掲載など木の実の活動を多く発信していった。多くの方々より視聴の声や感想を頂いた。

③【保護者との関係性】の向上

保育や行事に保護者を招き、子どもの楽しむ催しに保育者と一緒に参加してもらい、子育ての楽しさを共有していった。園内研修で行ったポスターセッションを保護者にも見てもらい、各クラスから保育に対する思い伝えた。保護者より沢山の感想や感謝の思いを頂戴し保育の励みとなった。感想は保護者同士でも共有した。

2. ICTによる業務改善

ICTでの午睡チェックを導入した。子どもの安全、命を守るとともに職員の業務負担軽減につなげていった。園見学でICT導入を説明すると、安心して預けられるとの声が沢山聞かれた。

食事に使用するエプロンやおしぼりの個人持参を廃止しサブスク活用に変更した。保護者の登園準備負担、家事負担軽減に加え、職員の業務負担軽減にもつなげていった。オムツのサブスクの準備も進め、次年度より導入する。

3. 人材の確保

養成校や派遣会社との共存関係をもとに、木の実への就職希望の声が多く聞かれた。直接個人から募集の有無の電話を受けることもあり、人材確保に困ることはなかった。将来の人材確保を視野に入れ、養成校での授業や派遣会社主催の講座では、働きやすさを積極的に考えていることやその取り組みを伝え、法人及び木の実の存在意義をアピールしていった。